

(公社) 農業農村工学会が「産官学連携」により
新たに取り組む人材育成制度がスタートします

博士課程（後期）で取り組む研究課題
を募集しています!!

1人・1研究課題あたり年間100万円（3年間）を支援する
「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動
への支援事業」の募集要領

2021年7月

詳しくは2021年度大会講演会シンポジウム
「農業農村工学に関する博士人材のキャリアパス」(2021/9/1, 11~12:40)
をご覧ください。



公益社団法人 農業農村工学会

The Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering

2021 年度 募集要領

(2022 年度支給開始 [2021 年度修士課程 2 年] 学生、
及び 2023 年度支給開始 [2021 年度修士課程 1 年] 学生を対象)

農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業

(公社) 農業農村工学会

1. 趣旨

農業農村工学会(以下、学会という。)は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する。」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な課題として、土地改良長期計画(2021 年 3 月 23 日閣議決定)があります。それを技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画(2021 年秋頃決定)」があり、そこに示される「あるべき農業・農村の姿」に資する重要課題に取り組むことが喫緊の課題となっています。

その一方、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若い研究者が不足し、人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため、博士課程(後期)に進学し、研究に取り組もうとしている学生の研究課題を支援するため、学会では、(一財)日本水土総合研究所(www.jiid.or.jp)の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」(以下、支援事業という。)を創設し、博士課程(後期)学生への研究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指します。

2. 対象者、募集人員及び取り組む研究課題

【2022 年度対象者】

2021 年度現在、修士課程 2 年、博士課程前期 2 年の学生で博士課程(後期)に進学する者を対象とし、学会の学生会員であることを要件とします。

【2023 年度対象者】

2021 年度現在、修士課程 1 年、博士課程前期 1 年の学生で博士課程(後期)に進学する者を対象とし、学会の学生会員であることを要件とします。

なお、募集時点で学会非会員の学生については、採用後に学生会員に入会することを要件とします。

募集する研究課題数は、支給開始年度ごとに 5 課題以内です。

なお、現在博士課程(後期)に在籍している学生や社会人の博士課程(後期)

学生は、既に研究課題を決めて取り組んでおり、この事業の目的である研究課題と一体化することが困難と考え、支援事業の対象者としません。また、日本学術振興会の特別研究員制度の採用者も対象としません。ただし、日本学術振興会の特別研究員制度との併願は可能ですが、重複受給はできません。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、2021年3月23日に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画（現在の案は農林水産省のホームページを参照）」に資する研究課題とします。

[土地改良長期計画の策定について：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

[農業農村整備に関する技術開発計画\(2021/2/3時点\)](#)

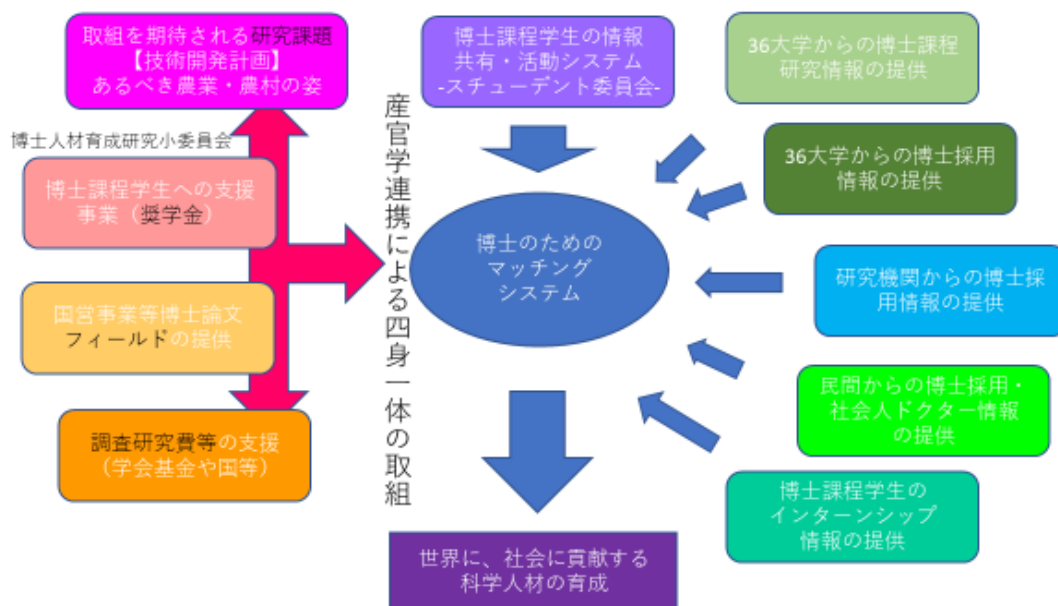
[令和2年度第2回配付資料：農林水産省 \(maff.go.jp\)](#)

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が、今後別途構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です（学会HPの博士人材のキャリアパスを参照）。

学会による博士人材マッチングシステム

博士課程の学生が求める情報を的確に、タイムリーに提供するマッチングシステムを構築



4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1人・1研究課題あたり年間100万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士課程（後期）の3年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込みます。

6. 選考方法

(1) 書類審査

申請に必要な書類は次の3種類です。

- ①進学しようとする博士課程（後期）、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書（様式1、顔写真添付）
- ②指導教員（応募時点）の推薦書（様式2）
- ③これまでの業績リスト（様式3）

(2) 面接審査

上記（1）書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査及び面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式（様式4、A4、2ページ、最終年度は、4ページ）に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また、（一財）日本水土総合研究所（以下、水土総研という。）におけるアソシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、「大学生の農業農村体験研修会」における必要に応じての参加、協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の選考時期

【2022年度対象者】対象は2021年度修士課程2年生となります。

募集期間 2021年8月1日(日)9:00から9月30日(木)17:00(厳守)

面接 2021年12月上旬

内定 2021年12月末まで

【2023年度対象者】対象は2021年度修士課程1年生となります。

募集期間 2022年1月1日(土)9:00から2月28日(月)17:00(厳守)

面接 2022年4月

内定 2022年5月上旬

9. 博士課程(後期)修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>「博士人材のキャリアパス」)より、申請様式1~3(Wordファイル)をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mailの添付ファイル(Wordファイル)にて「8. 選考時期」に示す募集期間内までに下記提出先に提出してください(郵送は受付しません)。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをお願いします。パスワードは、別途、メールにてお知らせください。

(*申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のみに利用します。学会ホームページ:<http://www.jsidre.or.jp> 参照)

提出先：農業農村工学会博士人材支援事業担当あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

問い合わせ先 (TEL 03-3436-3418, E-mail：new-suido@jsidre.or.jp)

農業農村工学会

事務局

調査研究部

中 達雄

中村 充郎

様式-1 (2022年度生) (2023年度生) [どちらかに○を付ける]

農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業
2021年度研究支援申請書

2021年 月 日

公益社団法人 農業農村工学会
会長 平松 和 昭 殿

申請者名	(学会会員番号) 署名 _____		顔 写 真
現在の所属大学	(大学院・研究科・専攻まで記入)		
申請者(ローマ字)			
進学する大学	(博士課程、専攻、指導予定教官名まで記入)		
現在取り組んでいる研究課題名		現在の専門分野名	
生年月日、性別	西暦 年 月 日		男 女
現在の所属大学所在地	(〒 -)	電話	
		E-mail	
申請者連絡先・住所・電話番号、メールアドレス	(〒 -)	電話	
		E-mail	

下記のとおり貴学会の支援を申請いたします。

記

1. 支援希望動機

(A4、1ページ程度で記載してください)

2. 取り組む研究課題名

[該当する課題番号および取り組む課題名（内容を30字以内で記載、副題も可）]

(1) 該当する課題番号：（下記の〔注〕の中から該当する番号を記載してください）

(2) 取り組む課題名　：
（英語名併記）

[注] 該当する課題番号（別添イメージ図6枚を参考）

【①スマート農業の推進による生産性・持続性の高い農業】

【②誰もが参入できる多様な農業生産のための基盤整備】

【③中山間地域の生産者と消費者をつなぐ農園整備】

【④地域資源を活用した快適で利便性の高い自立分散型の農村】

【⑤農業水利施設の管理・更新等のデジタル技術による省力化・効率化】

【⑥防災・減災及び災害時から災害復旧まで迅速に対応できる安全な農村】

3. 研究課題の内容

（図表を入れてA4、1ページ程度で記載ください）

(1) 研究の位置づけ

(2) 研究目的

(3) 研究方法

(4) 研究内容

(4) 得られる研究成果

(5) 参考文献または既往の研究成果文献

(必要があればページを追加してください)

様式-2

(2022年度生) (2023年度生) [どちらかに○を付ける]

農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業
2021年度研究支援申請書

1. 指導教官の推薦書
(400～500字程度)

2. 指導教官の所属・氏名 (学会会員番号)

(学会会員番号) 署名 _____

様式-3

農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業
2021年度研究支援申請書

これまでの研究業績リスト（口頭発表含む）

申請者氏名：

氏名	業績名（論文発表，口頭発表，受賞，その他）
○○○・○○○○・	タイトル、発表誌、pp.（発表西暦）

様式－４（２０２０年度）

農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業
2020年度研究活動報告書

（氏名：_____）

指導教官確認欄

・下記内容をご確認の上、自署をお願い申し上げます。指導教官署名_____

（年間研究活動報告：A4 2枚、最終年度は4枚、図表を含む。各項目名は例示です。）

1. 研究目的
2. 研究方法
3. 研究結果と考察
4. 得られた成果、残された課題と今後の展開方向
5. 発表論文等（成果の公表）

農学部系の学生の皆さん



公益社団法人 農業農村工学会の



LINE公式アカウントで

就職や進路に役立つ情報をGETしよう

就職情報

活躍する先輩からのメッセージ
や採用情報も!



企業・官庁等の
若手技術者と
直接お話しする
チャンス

イベント情報

研究所見学会やセミナー
等の情報をいち早くお届け



研究室紹介

農業農村工学が学べる大
学の研究室を紹介します



食べながら
楽しく
おしゃべり

渋谷のハチ公と
農業農村工学
意外なつながり
とは?



知ってました!?
農業農村整備の
歴史と役割

QRコードで登



LINEアプリを起動、「友だち追加」から「QRコード」を選択、カメラで左記のQRコードを読み取ってアカウントを追加してください。

農業農村工学が学べる大

(公) 農業農村工学会 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3F TEL 03-3436-3418

協賛：(社) 土地改良建設協会

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|------|-------|
| 北海道大学 | 秋田県立大学 | 東京農工大学 | 石川県立大学 | 神戸大学 | 高知大学 |
| 帯広畜産大学 | 山形大学 | 東京農業大学 | 岐阜大学 | 近畿大学 | 九州大学 |
| 弘前大学 | 茨城大学 | 日本大学 | 三重大学 | 鳥取大学 | 佐賀大学 |
| 北里大学 | 筑波大学 | 明治大学 | 滋賀県立大学 | 島根大学 | 宮崎大学 |
| 岩手大学 | 宇都宮大学 | 信州大学 | 京都大学 | 岡山大学 | 鹿児島大学 |
| 福島大学 | 東京大学 | 新潟大学 | 大阪府立大学 | 愛媛大学 | 琉球大学 |